

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700356	事業の開始年月日	令和2年 2月 1日
		指定年月日	令和2年 2月 1日
法人名	ケアパートナー株式会社		
事業所名	ケアパートナー磯子中原・グループホーム		
所在地	(〒235-0036) 横浜市磯子区中原3-3-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年2月22日	評価結果 市町村受理日	令和6年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.care-partner.com/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアパートナーでは大切にすべき価値観として以下4つの「大切にすること」を掲げ日々業務にあたっています。
「安全を大切にすること」お客様の安全優先・些細な変化に気づき共有する。法令順守・5S活動を実施し安全な生活を支援します。
「サービスを大切にすること」趣味趣向を尊重し、自宅での生活に近い形で生活できるように支援し、自己決定を促しています。
「成長・改善を大切にすること」社内社外研修の充実させスタッフの自己成長に取り組んでいます。
「地域を大切にすること」隣接する自社運営「キッズパートナー」との交流を行い、地域ケアの一端を担っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月12日	評価機関 評価決定日	令和6年5月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は京浜急行本線屏風ヶ浦駅から徒歩で10分程の住宅街にある鉄骨造2階建ての2ユニットのグループホームで、1階には、同法人が運営する保育園を併設している。園児がハロウィンの行事で、事業所を訪れ、利用者は、お菓子を配るなどして、交流している。毎日、元気な子供たちの声が聞こえる環境にある。事業所は、男性職員が多く勤務している。 【理念の実践につながる様々な研修の実施】 「安全」「サービス」「成長・改善」「地域」の4項目の『たいせつにすること』を日々のケアの原則として捉え、事業所の理念としている。理念は、タイムカードへの記載のほか、事業所の全体会議での確認、人事考課の際の個人目標作成時などに共有している。法人は、理念、認知症及び認知症ケアに関する研修、感染症食中毒などをテーマに毎月、eラーニングで研修を実施している。事業所では、事業所の全体会議で法定研修を行い、学びを深め、理念の実践につなげている。 【入浴を楽しむ支援】 利用者は、概ね週2回入浴している。入浴時には、都度の湯の入れ替え、体調にも配慮している。脱衣所と浴室の温度差が生じないように、ヒートショック対策を講じている。同性介助や一番風呂の希望に応じている。2日程前から入浴日を伝えておくと楽しみに待って入浴する方や、職員との会話を楽しむ方がいる。重度の方は、職員2名で介助しボードを使用して湯船につかり、清潔を保持している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ケアパートナー磯子中原・グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ケアパートナー磯子中原・グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員に経営理念とその経営理念を達成するための価値観を「たいせつにすること」とし説明をしている。毎月のセンター全体会議でも共有をしている。必要に応じ各個人との面談を実施しています。	法人の経営理念を基に、4項目から成る「たいせつにすること」（①安全を大切にする②サービスを大切にする③改善・成長を大切にする④地域を大切にする）を、日々のケアの原則として捉え事業所の理念としている。タイムカードへの明示や全体会議での確認、人事考課の個人目標作成時などで理念を共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状は感染防止の観点から建物周辺の散歩程度に留め、キッズパートナー保育園との交流も状況に応じての実施しております。ご家族の対応においても密を避けるようご案内し対応しています。	中原自治会へ加入している。開設当初から新型コロナウイルスの影響があったと共に、毎年度、自治会役員が変わっていること、また当事業所の管理者の交代もあり、地域との関係構築が進んでいないが、事業所が行っている地域清掃活動時には、近隣の方と挨拶を交わしたり、併設の保育園の園児とハロウィンなどの催しで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流においてはほとんどありません。隣接するキッズパートナーとは季節のイベント毎に計画しますが感染症のため中止もあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は系列の磯子杉田グループホーム、アスウェル（通所介護）と共催し実施し、こちらからの情報共有も行っております。	運営推進会議は、近隣にある同一法人の3事業所合同で、新型コロナウイルスが5類感染症に移行後は、11月より奇数月に対面で開催している。メンバーは、民生委員、地域包括支援センターの職員、同法人の3事業所（認知症対応型通所介護アスウェル磯子杉田、磯子杉田グループホーム、当事業所）の管理者としている。今後は家族会との同日の開催や自治会長への参加依頼を継続して行う意向である。	今後行う意向である、家族会との同日の開催や自治会長への参加依頼の継続を実行するとともに、家族に開催報告書を毎回送付するなどして運営推進会議のさらなる充実を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>法令関係においては社内の担当者が市区町村と連絡を取り合い対応しています。</p> <p>お客様に関する事案はセンター長、計画作成担当者が担当ケースワーカーと対応しています。</p>	<p>運営推進会議の報告書は、区の高齢・障害支援課に郵送している。介護保険要介護認定の更新手続きの際は、窓口に出向いている。生活保護費を受給している利用者があり、区の担当職員には、協力医療機関以外のかかりつけ医への受診の動向などについて実情を伝え、相談している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	社内研修、センター全体研修を通じ、チェックリストを活用しながら具体的な行為においても触れる研修を行っています。	運営規定に身体拘束等の適正化を図るため、指針の整備などの措置を講じることを明示している。「安全衛生委員会」の中で身体拘束について話し合っている。帰宅願望のある方などの特徴を把握して、外に出たいそぶりが見られた時には、「食事ができたようなので戻りませんか」と誘うなどして、気分転換を促す支援をしている。事業所の全体会議で研修を行い、身体拘束をしないケアの確認をしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の年間研修に組み込まれており、実施している。職員同士や職員と入居者様のなれ合いが発生しないよう、併せて接遇・マナー研修も実施しています。	重要事項説明書に「お客様の人権の擁護・虐待防止等のために必要な措置を講じることを明示している。職員は「高齢者虐待防止法を含む虐待防止に関する研修」を行い、虐待があった場合、速やかに管理者に情報が上がるよう周知している。職員は「自己点検シート」を活用し、集計結果を事業所の全体会議で共有し、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修にて実施しています。実際に後見人のついた入居者様がいたので対応方法を実践しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの趣旨・弊社との取り決めの説明をしています。今後発生しうる事象についても契約時に説明し、ご理解を得てから契約の流れとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡の際には近況報告やほかに要望がないか等ご意見をいただくようにしています。	毎月、行事での利用者の様子などを知らせる手紙に写真を添えて、請求書に同封し、家族などに送付している。家族の意見は、入所時のほか、来所や電話の際に聞いている。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後の10月に、中止していた家族会を再開している。「薬の調整について確認したい」という家族の意見に応じて、医師の訪問日に家族が来所し、医師と面会できるように調整している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関する提案・発言がしやすいよう業務整備を行っています。なかなか意思表示が難しい職員にはこちらから話しかけるようにしています。	日々の申し送りや毎月開催している事業所の全体会議で職員の意見や提案を吸い上げ、利用者のケアに反映している。「重度化している方が増え、2人介助で入浴支援をしているのでリフトを導入してほしい」などの意見を受けて、管理者は、法人に要望を出している。年2回、個人面談を実施している他、必要時には管理者が個別に対応して相談などに応じている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内で年2回自己評価を行っています。自己の目標や目指すところも申告するようになっており、資格取得制度についても金銭的な負担と参加しやすいシフト配慮を行っています。	事業所では、就業規則に基づいた業務運営を行っている。有給休暇のほか、育児・介護などの休暇取得制度を整備し、アニバサリーなどの特別休暇を付与している。法人では、人事考課制度を採用して、管理者が考課者として年2回個人面談を行っている。勤務表の作成や行事計画などの業務を職員に任せ、成果は全て本人の評価につながるように配慮し、職員が向上心を持って働けるようにしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、センター会議他、インターネットを使用したe-ラーニングも採用しています。必要に応じ、その場で実技指導など実施している。	法人は、理念、認知症及び認知症ケアに関する研修、感染症食中毒などをテーマに沿って、e-ラーニングによる研修を毎月実施している。事業所の全体会議で法定研修を行っている。介護福祉士やケアマネジャーなどの外部研修受講時には、出勤扱いで交通費を支給するなどの資格取得支援制度を導入している。新人社員に「入社時必須ファイル」を配布し、OJT対応で育成をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ入会していますが、現状参加のめどは立っておりません。人員配置状況の改善後に参加できるように配慮したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約を交わす前に必ずご家族様及びご本人様と面談を実施しています。アセスメントや要望・困りごとを聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた際や面談を行った際に困りごとや不安に感じていることを聞き、正確かつ早いレスポンスを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様と面談した際にグループホームとしてできること・できないことを説明し御理解いただいています。生活面・ニーズについても環境の変化を最小限にするべく配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の家にサービスをするために来ているという認識で、居室に入る際はノックをする等の基本的動作を大切にしています。生活の中での掃除など出来る範囲のことはしていただくように配慮しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様で行えること（受診応・備品購入）は極力ご対応のお願いをしています。機会ごとに近況報告を行い、出来ることの協力を依頼しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便や電話のやりとりの支援や個人（入居者）の携帯持ち込みも可能としています。	外国に渡航している親族が一時帰国した際に一時的に自宅に戻る方や、家族の誕生日会に参加する方がいる。退職した会社から年賀状やカレンダーが送られてくる方がいる。電話を希望する方には、取り次ぎをして馴染みの人との関係が途切れないように支援している。利用開始前からの生活習慣で、毎日牛乳を飲む方やポストに郵便物を取りに行く方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のADLや性格を把握してトラブルのないよう工夫をして席を配置しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても必要に応じてご家族様と連絡を取り合い、現況報告、問合せできるよう対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時や面会時にニーズや困りごとを聞き好みや希望を把握し会話の中から生活に対する想いをくみ取るようにしています。	利用開始時のアセスメントや日々の関わりの中で、利用者や家族から思いを聞いている。職員と密になる入浴や買い物時の会話で意向を把握する事も多く、把握した内容はタブレットの「申し送り」に入力し、共有している。利用開始前に行っていた洗濯たたみ等の家事経験を活かし、日々の生活に反映している。意向の把握が困難な方は、家族に好きな物などを聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に聞き取りを行い入居後においても同様に対応できるよう意識しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前カンファレンスを開催し共有をしています。 健康状態は日々のバイタルチェック・体重、食事量・排泄回数等を記録し把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス実施し、個々の状態を確認し支援方法を考えている ご家族からの意見も計画書へ反映しています。	家族や医師などの意見を反映し、短期目標1年、長期目標3年の介護計画書を作成している。3ヶ月に1度モニタリングを行い、状態に変化があればその都度見直し、通常は1年で見直している。利用開始時は、一時的なプランを作成している。介護計画を反映した「ケアチェック表」に <input type="checkbox"/> 入力し、計画に沿ったサービスが提供できているかを確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにタイムリーに記録の記載ができるようにしています。全体会議やカンファレンスで意見交換し計画書へ反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況変化によるサービスに変更が必要な場合は協力医療機関の医師、看護師、相談員とよく連携し助言を求めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント再開時は隣接する自社の保育園との交流を継続できるよう検討しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として協力医療機関、訪問診療の医師との連携を行っている。入居後も在宅でのかかりつけ医で受診できるよう配慮している。	利用者は2ヶ所の協力医療機関（内科医）のいずれかをかかりつけ医とし、訪問診療の内科医か、病院の内科医の診療を受診している。相談員が病院への送迎を担っている。看護師が毎週来所し、利用者の健康観察をしている。訪問歯科医は月1回来所している。人工透析内科などの専門医への受診は、家族が対応とし、受診結果を聞き取って「申しおくり」に <input type="checkbox"/> 入力し、内容を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護と連携しています。それぞれ事業所が中心となり情報共有しています。訪問看護で健康チェックを行っています。24時間対応も可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際サマリーを入院先に提出し情報提供をしています。退院時には事前の情報共有を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族の意向を聞き、重度化した場合の指針を明示しています。また、加算についての説明も納得いただけるよう説明しています。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」で事業所の方針を家族などに説明し、共有している。終末期には医師と家族と三者で話し合い、事業所でできること、できないことを家族に伝えている。今年は、1名を看取っている。利用者を迎えるに際し管理者が研修を行い看取り後は、アンケートを実施し、その結果を次回に活かせるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修にて事故防止に関する研修を実施している。またいつでも閲覧できるマニュアルも設置し対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練実施しております。	ハザードマップで災害のリスクを把握し、今年度は、火災と避難の総合防災訓練を実施し、その後夜間想定の上訓練をしている。日用品や水、米、五目ご飯、エンシュアリキッド、ビケットなどを確保している。食品の消費期限の管理は法人が行っている。BCP（災害時業務継続計画）を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じ接遇マナーや権利擁護を取り入れ、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけている。	訪問診療は、診察の内容により居室や居間で受診している。入浴時は、脱衣所にカーテンをひく、失禁時の声掛けは「汗をかいてしまいましたね」と声をかけるなどして、人格を損ねないように、努めている。居間で利用者のことを話す際は、部屋番号を使うようにしている。「認知症」や「プライバシー」の研修を行い、管理者は、利用者の羞恥心などに配慮するよう職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の準備や洗濯ものたたみ等をご本人に提案し、ご自分で選択できるよう声掛けしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の趣味や生活のペースを把握し楽しみを持ちくつろいで生活できるよう支援している。就寝起床時間、夜間の睡眠状況も個々のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりやおしゃれを尊重し季節感にあった衣類を促すように対応している。 また、訪問理美容で気分も前向きになれるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からの食事配達となっておりますが、季節感のあるメニューや行事食を提供できるようになっています。洗い物や食器拭きも一緒にやるよう対応しています。	ご飯、みそ汁は職員が調理し、主菜や副菜などは、専門業者の食材を湯煎し、提供している。利用者の状態に合わせて刻み食などを提供している。利用者は、テーブル拭きや食器拭きなどできることを手伝って、炊事に関わっている。誕生日や新年会、敬老会などの催しでは、ケーキやお好み焼きなど利用者の好みの物を提供している。家族と外食に出かける方がいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立により栄養バランスはとれている。食形態においても柔軟に対応できている。主食量も個別に増減の対応、水分量も同様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。必要に応じて介助も行っています。訪問歯科による定期的なケアも実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し適切な時間帯に排泄のお声がけ・対応ができるようにしています。	利用者の排泄状況を職員がタブレットに入力してリズムを把握し、トイレでの排泄を促している。退院時におむつを使用していた方に立位を保てるよう支援して、入院前の状態のトイレでの排泄へと改善した事例がある。パッドの当て方を確認したことで使用枚数が減った方がいる。夜間は、不安解消のため厚めのパッドを使用するなど、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて最終排便の日を共有し、水分量調整や寒天をおやつに追加するなどの対応を行っています。また訪問診療時に医師と相談、家族とも情報共有しています。	/		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入れるよう入浴表を活用していますが、ご本人の意を汲みその日の入浴が難しいようであれば別日で対応するなどの対策を取っています。	お湯は、入浴ごとにひとりずつ入れ替え、利用者は概ね週2回入浴している。脱衣所と浴室の温度差に配慮し、ヒートショック対策を講じている。希望があれば、同性介助や一番風呂に応じている。2日程前から入浴日を伝えておくと楽しみに待ち入浴する方など、入浴を好まない理由を把握し支援している。職員との会話を楽しみにする方もいる。重度の方は、2人介助でボードを使用して湯船につかり清潔を保っている。	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は寝巻への更衣を原則とし、生活習慣やその時々状況に応じて日中においても居室でくつろげるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理表や薬の一包化など、誤薬リスクを考えた対応を行い、実際の内服時は2名で必ず確認し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、掃き掃除、郵便をポストに取りに行く等を通じ、入居者様に役割を持っていただくよう配慮しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦において施設周辺の散歩程度に留めていたが、面会・外出ともに徐々に緩和し、家族との外食、買い物など外出できるように支援している。	日常的に近隣の公園へ散歩に出かけたり、コンビニエンスストアで買い物をしている。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後には、感染防止に配慮しつつ外出する機会を作り、横浜スタジアムや野島公園へドライブに出かけている。外出を好まない方は、外気浴などをして気分転換している。通院の帰りに家族と外食などを楽しむ方がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品のご持参は基本にご遠慮いただいておりますが、欲しいものについてはご家族と相談の上対応するようにしています。少額であればご自身で所持されている方もおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により事業所の電話を取り次ぎ、使用、個人の携帯電話の使用の支援、郵便物の支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは窓が2か所あり、採光状態は良好です。空調に関しても直接風が当たらないよう配慮、温度管理もしています。	リビングは、エアコンや加湿機能付きの空気清浄機を設置し、温湿度管理をしている。エアコンの風が利用者に直接当たらないよう風向きに配慮している。浴室の入口にミネラル温泉と表した暖簾を下げて所在をわかりやすくしている。正月飾りやクリスマスツリーなどを飾り、季節を感じられるようにしている。リビングには、みそ汁を作る過程の味噌の香りが漂い、五感の刺激が得られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士の相性を把握し、会話を楽しめるよう配慮しています。また、席においても窓側やテレビが見える席など、可能な限りで配慮できるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用していた家具などを引き続きご使用いただくことで、安心していただける空間づくりをしています。入居後に追加したい場合も対応可能です。	事業所が備えた電動ベッド、クローゼット、エアコン、照明器具、防災カーテンがある。使い慣れた机といす、時計、テレビ、クッション等を持ち込み、写真や造花を飾るなど、利用者各々の個性が感じられる。居室では、辞書を開き「脳トレ」を楽しんだり、テレビを見るなどして、利用者各々が思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように大きく表示したり、必要な情報が視覚から取り入れられるよう配慮しています。		

目標達成計画

事業所名

磯子中原グループホーム 1 階

作成日

2024. 2. 25

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	前回評価時において運営推進会を実施することが課題であったが、今年度実施は出来たが、意見の汲み取りやサービス向上へ活かしてきれていない。	運営推進会議での利用者やサービスについて、そこでの意見を具体的なサービス向上に活かす。	①運営推進会議にて、事業所内で生かす 還元できる内容であれば地域内で活用できるようにする	3月より開始、9月までを達成目標とする。
2		身体拘束・高齢者虐待防止の継続	各委員会や研修を実施するだけでなく、認知症ケアや接遇マナー研修など多方面からのつながりを意識する。	eラーニング研修、虐待の芽チェックリスト使用し、自分の事業所の状況、職員自身のケアについて振り返る機会を設ける。	9月までを達成目標とする。
3	10	職員を育てる取り組み	介護マニュアル、業務マニュアルで基本的事項の周知、徹底 eラーニングの活用による最新情報の取得。 会社・グループホーム理念等々、業務以外を含め教育実施	①施設の全体会議を通じて、学習したことを再周知し、その後それぞれの職員の力量に応じて面談、実践指導を行う。②指導できる職員の教育を行う。	①中途採用の度に実施していく ②年内には 理解社員を増やす
4		大規模災害時BCPは策定してあるが、実際の対応訓練は実施していない。通常の総合防災訓練は実施しているが、複合的な要因による作用は考慮していないこともあり、実地対応策を整える必要がある。	通常の避難訓練は継続するとともに、停電や高波、津波想定や施設が孤立した場合の対応策などを想定し訓練する。管理者音信不通となっても事業継続できるように準備しておく。	避難訓練は日勤帯、夜間帯など想定毎に実施する。管理者は作成してあるBCPマニュアルを参考により具体的なものを作成する。	年間を通じて実施していく。

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

目 標 達 成 計 画

事業所名 磯子中原グループホーム2階

作成日 2024. 2. 25

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	前回評価時において運営推進会を実施することが課題であったが、今年度実施は出来たが、意見の汲み取りやサービス向上へ活かしかれていない。	運営推進会議での利用者やサービスについて、そこでの意見を具体的なサービス向上に活かす。	①運営推進会議にて、事業所内で生かす 還元できる内容であれば地域内で活用できるようにする	3月より開始、9月までを達成目標とする。
2		身体拘束・高齢者虐待防止の継続	各委員会や研修を実施するだけでなく、認知症ケアや接遇マナー研修など多方面からのつながりを意識する。	eラーニング研修、虐待の芽チェックリスト使用し、自分の事業所の状況、職員自身のケアについて振り返る機会を設ける。	9月までを達成目標とする。
3	10	職員を育てる取り組み	介護マニュアル、業務マニュアルで基本的事項の周知、徹底 eラーニングの活用による最新情報の取得。 会社・グループホーム理念等々、業務以外を含め教育実施	①施設の全体会議を通じて、学習したことを再周知し、その後それぞれの職員の力量に応じて面談、実践指導を行う。②指導できる職員の教育を行う。	①中途採用の度に実施していく ②年内には 理解社員を増やす
4		大規模災害時BCPは策定してあるが、実際の対応訓練は実施していない。通常の総合防災訓練は実施しているが、複合的な要因による作用は考慮していないこともあり、実地対応策を整える必要がある。	通常の避難訓練は継続するとともに、停電や高波、津波想定や施設が孤立した場合の対応策、特に2階から避難か待機か決定するなどを想定し訓練する。管理者音信不通となっても事業継続できるように準備しておく。	避難訓練は日勤帯、夜間帯など想定毎に実施する。2階避難器具の使用方法、階段昇降訓練を実施。管理者は作成してあるBCPマニュアルを参考により具体的なものを作成する。	年間を通じて実施していく。

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。